

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500212
法人名	新居浜医療福祉生活協同組合
事業所名	あったかほーむ たかつ
所在地	新居浜市高津町3番20号
自己評価作成日	平成26年12月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自立支援をモットーに手を出し過ぎない介護を心がけている。
重度化に伴い、日々の変化に介護力が必要とされてきている。今年度2件、看取りを行った。
内部の医療機関と連携を取り、家族とともに最後まで看取ることができた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

毎月行う職員会時に、「認知症ケア研修」を重ねており、職員で日頃のケアについて意見交換したり、外部研修で学んだことを共有されている。会を重ねるごとに、ケアについて具体的に話し合う場面が増えたようで、管理者は研修を継続することの効果を感じておられた。
事業所は、「家族で過ごす最期の時を大切にしてもらいたい」と思っており、ご家族には、「看取りは、家族の協力なしではできない」ことを伝えている。ご家族が居室に数日泊り、協力し合って支援したケースもあり、ご家族からは、「一緒に過ごすことができて良かった。」と感謝の言葉をいただくようなこともある。支援後、職員から、「元気な間にしっかり関わっていきたい」「今を大事にしたい」という感想もあったようだ。
赤色の食材があると食欲が出る利用者があり、食材選び等も工夫されている。又、食のすすまない利用者には、刻み具合を調整し、食事が増えたようなケースもある。お茶碗におかずを全部入れて食べることがこれまでの習慣の利用者には、プレート皿を使ってご飯やおかずを盛り付けて、見た目も楽しんでもらえるよう工夫している。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印		項 目		取 り 組 み の 成 果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい の				2. 家族の2/3くらい と
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職 員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

あったかほーむ たかつ

(ユニット名)

1階・2階

記入者(管理者)

氏 名

伊藤 道子

評価完了日

平成26年

12月

23日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			職員全員で作り上げた理念のもと、全員で共有し実践につな げている。	
			(外部評価)	
			玄関を入ると見える位置に「感謝の心を大切に いつも笑顔 真心こめて 和やかな暮らしが出来るように 支援します」という 事業所理念を掲示されている。管理者は、理念の中で、「笑 顔」「自立支援」を特に大事に考えており、毎月の職員会等で は、「何でもすることがケアではなく、少しでも利用者が自分で 行えるよう支援しましょう。」と職員に話しておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられ るよう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			早朝のごみ出し時の声掛けや季節の花、野菜などを持って来 てくれたり、利用者との関わりを持っている。 1人2人とだんだんと地域住民の方とのつながりが増えている。	
			(外部評価)	
			事業所に併設するキッチン付きの地域交流室「縁がわ」は、子 どもの貸出文庫や地域の方が手作りした小物等を販売する等 して、子どもからお年寄りまでが自由に出入りできるスペースに している。週3回は、カレーやパンを販売しており、時には小学 生が集まり、折り紙をしながら利用者で交流するような機会も 作っている。野菜作りをしている地域の方が野菜をおすそ分け してくれたり、野菜の苗を庭に植えてくれたりもする。地域の花 火大会時には、事業所の前で近所の方達と一緒に楽しまれ た。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			毎月の運営会議時に認知症の勉強会を行っている。 市の主任ケアマネに参加してもらい、提案やアドバイスをもらっ ている。 運営推進会議で認知症の映画を取り上げ、地域の方々にも見 て頂けるよう声掛けしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			参加者も市会議員や消防団員、自治会長など増え、活発な意見が増えている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(外部評価)	
			法人理事長の働きかけで、市会議員や地域の消防団の方等、新たな地域の参加者が増えている。会議時には、事業所や法人の専門性等を活かして「認知症について」「介護保険について」等、勉強する機会を作っている。地域の方からは「介護保険のことを知らなかった」「もっと早く勉強していたら良かった」等と感想があったようだ。法人内職員が講師となり「口腔ケアのできるインフルエンザ予防」について勉強した際には、口腔体操「あいうべ体操」を教えてもらい、事業所でも食前に採り入れておられる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			運営推進会議に参加して頂いている。 また不安や疑問がある時は電話や直接訪問して指導してもらっている。	
			(外部評価)	
			地域の方からは、介護相談や施設入所についての問い合わせ等もあり、相談内容に合わせて地域包括支援センターや同系列の居宅介護支援事業所につなげている。市からの依頼で、毎年夏休みに数人の中・高校生のワークキャンプを受け入れている。	
			(自己評価)	
			当事業所では身体拘束はしない事に徹底している。 身体拘束の研修会に参加し、報告を再度行い、なぜいけないかについて話し合っている。	
			(外部評価)	
			玄関を開放しており、よく訪れる方には「インターホンは鳴らさず気軽に入ってきてください」と伝えている。管理者は、職員会時に、「身体拘束はなぜ行ってはいけないのか」「身体拘束を行うとどうなるのか」等について話しをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し、報告書を提出している。 報告書をもとに「虐待とは何か」について職員間で話し合っている。 言葉の虐待について話し合いを行い、理解し、意識を共有することに努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、資料を配布している。 職員全員で活用できるよう支援している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用開始前に文書を作成し、1人ひとりに説明を行い確認している。遠方の家族には電話連絡のうえ、郵送や帰省時に確認して行っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 行事やイベントの開催時には案内を出し、参加の呼びかけを行っている。 面会に来られた時に意見や要望を聞くように心がけている。 (外部評価) ご家族へ、毎月利用者個別に、日々の状況に写真を添えて報告されている。利用者のケアについて、「お任せします」と言われるご家族が多いが、要望等があれば、職員は、「気づきノート」に内容を記入し、情報共有している。毎日、会いに来られる方もあるが、遠方に住むご家族や仕事が忙しい方が多いようで、管理者は、「家族との関わりが十分ではない」と感じておられた。	事業所では、職員の人手にも限りがあり、取り組みに制限があることを踏まえて、現在、法人内の地域密着型サービス事業所4か所合同で協力し合い、家族会やイベントを行えるよう企画されている。事業所の活動にご家族もかかわるような場面を作る等して、ご家族と一緒に利用者を支えていけるよう、取り組みを工夫されてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月第1月曜に職員全員・本部職員や居宅のケアマネに参加 してもらい運営会議を行っている。 意見交換を行い、業務に活かしている。	
			(外部評価) 毎月行う職員会時に、「認知症ケア研修」を重ねており、職員で 日頃のケアについて意見交換したり、外部研修で学んだことを 共有されている。会を重ねるごとに、ケアについて具体的に話 し合う場面が増えたようで、管理者は研修を継続することの効 果を感じておられた。職員からの提案から大正琴のボランティ アの方に来てもらうことになり、利用者はとても喜ばれたようだ。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やり がいなど、各自が向上心を持って働けるよう職 場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 毎年1回契約更新時に面接を行い、話し合える機会を持ってい る。 意見や要望が出たときは話し合いを行い、向上心を持って働け るように努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	(自己評価) 研修会の案内を回覧し、多くの職員が参加する機会を作っ ている。 医療福祉生協全体での研修発表会に参加し、発表を行ってい る。 参加出来ない職員は後日資料を回覧している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービスの研修に参加したり、他事業所の運営推 進会議に参加し交流する機会を持ち、出た内容を共有出来る 様に努めている。 GH会を月1回行い意見交換を行い、質の向上が出来る様に取り 組んでいる。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくりに 努めている	(自己評価) 利用者に声掛け、傾聴し、変わった様子がないか等即、察知 出来る様努めている。 また、個々に馴染みのノートや写真、家具等持っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族が望んでいる事、困っている事を聞きながら、しっかり耳を傾け、不安を取り除けるように信頼関係作りに努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・家族が望んでいる事、してもらいたい事等を聞いて、職員全員が情報を共有している。 病院でのリハビリも利用して頂き、良い支援が出来る様に努めている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個人が求めている事、個人の状態に応じて出来る事を職員と一緒に出来る関係作りに努めている。(新聞折り、洗濯たたみ等)</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族が面会に来られた時は本人と家族が会話出来る場を作っている。また職員も一緒に参加して良い関係が作れるよう努めている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族(姉妹)に面会に行ったり、以前からの知人の方が会いに来られたり、お互い行き来が出来る関係を続けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の懐かしい場所や馴染みのある場所を訪れる「思い出のふるさと訪問」を支援されている。利用者の中には、懐かしいような場所を訪ねると、普段はほとんど話すことのない若い頃のお話をされることもあり、職員は、利用者の新たな情報を得る機会にもなっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合った利用者同士が隣合わせに座って楽しくお話している。 歌やゲーム等にも参加され、良い関係作りが出来ている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が修了しても、利用者や家族が気軽に来所出来る様な楽しい雰囲気作りに努めている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その方に合った暮らし方を把握して、本人の希望も取り入れ、楽しく過ごせる様に努めている。 (外部評価) 入浴時やドライブ時、利用者は生まれ育った場所の話や思い等を話されるようで、職員はゆっくり利用者のお話に耳を傾けておられる。職員は利用者のことをよく知っておられる。個々の情報を支援につなげていくためにも、情報を蓄積していくような仕組みを作ってみてはどうだろうか。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今まで生活していた馴染みのものを取り入れて、生活しやすい雰囲気作りに努めている。 家族や知人が面会に来られた時は、以前の利用者の生活を聞いたり、利用者が安心して生活が出来る様に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の体調・状態を把握して、職員同士が情報を共有し、毎日楽しく過ごせる様に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			定期的に担当者会議を開き、職員や家族の意見を取り入れて介護計画を立てている。 介護計画をもとにモニタリングも定期的に行っている。	
			(外部評価)	
			介護計画は、ご家族や利用者に希望を聞き取り、利用者個々の担当職員と計画作成担当者が中心となり作成されている。 3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月ごとに計画を見直すようになっている。	アセスメントのさらなる充実に取り組み、個々の情報をもとにして、一人ひとりがその人らしく暮らし続けられるような介護計画作成に、工夫を重ねていかれてほしい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々の暮らしぶりや気づきを記録していき、職員同士が話し合いの場を持ち、意見交換を行い、情報を共有し、介護計画の見直しに役立てている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			利用者が困っていること、体調変化があった場合、すぐに家族に連絡を取り、看護師にも伝えて対応にあたっている。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			ボランティアの慰問や隣接のデイケアの行事に参加して歌や三味線、大正琴、踊りを楽しんでいる。 これからも楽しみを提供していくように努める。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所時より、主治医を継続している。 受診は家族、職員がその状況に合わせて対応している。	
			(外部評価) 24時間体制のかかりつけ医が同敷地内にあることが、ご家族の安心につながっている。入居前からのかかりつけ医で診てもらうことを希望する方には、職員が受診に同行して支援されている。利用者の体調不良時には、管理者がご家族へ電話連絡して、相談しながら対応されている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者の体調不良に気づいたときは、すぐにバイタルチェックを行い、その状況を記録して看護師や責任者に連絡している。看護師の指示により、適切な受診を行っている。受診後は職員で情報を共有している。	
			(外部評価) 入院となった場合、医療機関に情報提供を行っている。定期的に病院にお見舞いに行き、情報を聞き、記録している。退院時は病院の情報を受け、主治医や医療機関と良い関係作りに努めている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院となった場合、医療機関に情報提供を行っている。定期的に病院にお見舞いに行き、情報を聞き、記録している。退院時は病院の情報を受け、主治医や医療機関と良い関係作りに努めている。	
			(外部評価) 重度化した場合、家族・看護師・職員が話し合いの場を持ち、情報や意見を共有して、その人に合った支援が出来るように努めている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合、家族・看護師・職員が話し合いの場を持ち、情報や意見を共有して、その人に合った支援が出来るように努めている。	
			(外部評価) 看取り支援については、入居時に「事業所でできること」「かかりつけ医との連携」について説明して、利用者やご家族から支援の希望を聞いている。事業所は、「家族で過ごす最期の時を大切にしてもらいたい」と思っており、ご家族には、「看取りは、家族の協力なしではできない」ことを伝えている。ご家族が居室に数日泊り、協力し合って支援したケースもあり、ご家族からは、「一緒に過ごすことができて良かった。」と感謝の言葉をいただくようなこともある。支援後、職員から、「元気な間にしっかり関わっていききたい」「今を大事にしたい」という感想もあったようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に話し合いの場を持ち、学習会を開き勉強している。 すべての職員が慌てず落ち着いて対応出来る様にしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防団員や地域住民の参加で消防訓練や避難訓練を行っている。 全職員が慌てる事の無い様に訓練を行っている。 今後は水害・地震時を想定した避難訓練を行うようにしている。 (外部評価) 年2回消防訓練を行っている。歩行が可能な方も参加して、実際に同敷地内の病院玄関前まで避難された。消防署からは、初期消火の重要性や防災加工を施した布団の使用等についてアドバイスがあった。緊急連絡網を実際に回してみたが、「時間がかかる」等の課題が見つかり、再考し作り直しておられた。事業所内には懐中電灯やオムツ、ジュース、缶詰等を備蓄しているが、その他の食料等の備蓄は、来年度、法人全体で話し合う予定となっている。地震に備えてベッド周りの安全を確認したり、歩行可能な方の居室を2階にする等して対応されている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 笑顔で顔を見て、一人ひとりの人格を尊重した呼び方や言葉かけを行うようにしている。 誇りやプライバシーを損ねない様に利用者が毎日笑顔で安心して生活できる様に努めている。 (外部評価) 居間に面しているトイレのドアの前にカーテンを取り付け、目隠しにしている。接遇に関して、法人内で毎月目標を掲げており、他事業所の職員と評価し合う仕組みがある。今月は「優しく見守り、ほほえんで声かけ」という目標を掲げておられた。職員の言葉遣いが気になった時は、管理者がその場で、個別に指導されている。身よりのない利用者が入院したような場合は、洗濯ものの世話等するようなケースがある。職員の利用者への対応や言葉かけについては、気になるような場面もみられる。接遇面について職員が自分自身を点検できるような仕組みを作ったり、来訪者に意見を聞いてみる等しながら、サービスの質向上を目指していかれてほしい。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々利用者と話しをし、思いや希望を読み取るよう努めている。 また、利用者が自分の思いや希望を安心して伝えられるよう傾聴する時間を持ち、実現出来る様に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 会話の中にヒントを見つけ、少しでも自分のペースで生活出来る 様に支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 毎日髪を整え、ヒゲ剃りを行っている。自分で服装を決められる 方は自分で行い、出来ない方は職員がその方らしい服装を身 だしなみに気をつけて選んでいる。 定期的に散髪、爪きり、耳掃除を行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の好みや苦手な食材を把握し、時折利用者に食べたい物 を聞き、献立に取り入れている。 その時の季節感や旬の食材を使い、食べる楽しみを持てるよう に努めている。 テーブル拭きやおぼん拭きなど出来る方は一緒に行っている。 (外部評価) 各ユニットの調理担当職員が、買い物や調理をしている。魚屋 が下処理をした新鮮な魚を配達してくれており、利用者が直 接、「刺身が食べたい」とリクエストすることもあるようだ。赤色の 食材があると食欲が出る利用者があり、食材選び等も工夫されて いる。又、食のすすまない利用者には、刻み具合を調整し、 食事量が増えたようなケースもある。お茶碗におかずを全部入 れて食べることがこれまでの習慣の利用者には、プレート皿を 使ってご飯やおかずを盛り付けて、見た目も楽しんでもらえるよう 工夫している。職員は食事介助後の休憩時間に、持参したお 弁当を食べている。利用者の重度化に伴い、以前に比べると 食事作り等にかかわるような場面は減っているようだ。	「食事を楽しむ」という観点から、グループホームの特長で もある利用者が主体の食事支援について、工夫できること はないか職員で話し合ってみてはどうだろうか。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量に気をつけ、体調に合わせて、食事量を調整し ている。 飲み込みの悪い人には小さく切ったり、トロミをつけて対応して いる。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 食後以外にも起床時と就寝前にも必ず口腔ケアを行い、夜間 は義歯の消毒を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			出来るだけ同じ時間帯に声掛けをし、トイレ誘導を行っている。その時に何もなければ、時間をおいて再度トイレ誘導を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			個々の排泄パターンを把握し、声かけしたり誘導して支援されている。トイレ付の居室もあり、トイレトペーパーを使いご自分で便座を拭く等、掃除する方もおられ、利用者の自主性を大切にして見守りながら支援されている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			利用者の体調や希望に合わせて対応し、ゆっくり入浴してもらっている。浴槽に入れない場合は足湯をして温まってもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			午後からは散歩等を楽しめるよう、現在は、午前中が入浴時間になっており、個々に週3回以上入浴できるよう支援している。脱衣場では、ご自分の力を使って椅子から立ち上がることができるよう、移動式の手すりを用意している。職員は、「シャワー浴のみの方も湯船でゆっくり温まってほしい」という思いを持っており、今後、介助の体制を検討したいと話されていた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			安眠できるよう室温・湿度・照明などの調整を行っている。個人のリズムに合わせて安眠できる様に支援している。また、午後から1時間ほど横になって休まれる方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの病状を把握し、薬もその都度確認を十分に行っている。 薬の変更時は職員間で伝達を行い、服薬間違いの無い様に努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々のADLや好み等を理解し、その方に合った家事や役割をお願いし、手伝ってもらっている。 音楽を聞いたり、映画等を観たり、将棋をしたり毎日を楽しく過ごせるよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調や気分に合わせて、散歩やドライブ、買物等に出かけられる様に支援している。 家族との時間も大切にしており、家族と外出出来る様に支援している。帰宅後も混乱の無いように見守りを行っている。 (外部評価) 道を挟んだ場所にある肉屋さんへ買い物へ行ったり、近くのコンビニへ個別におやつを買いに行ったり、隣家の庭の花を見せてもらうようなこともある。利用者の重度化もあり、近々、法人では車いす対応車を用意してくれるようになっていく。	職員は、「重度の利用者にも、もっと外食や外出を楽しんでもらえるよう支援したい」と話しておられた。利用者の外出先の希望等を探りながら出かける機会を増やしてはどうだろうか。ご家族や地域資源等を利用しながら取り組みを工夫されてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理の出来る利用者は買物時、自分で支払いを行っている。 出来ない利用者は職員と一緒にレジに行き、支払いが出来る様に見守りを行っている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 個人の携帯電話を持っている方は携帯電話で家族と連絡を取り合っている。 持っていない方は本人の申し出があれば事業所の電話を使用したり、家族から事業所の電話にかかってきてお話しされている。 手紙のやり取りも出来る様に支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を飾ったり、利用者同士が塗り絵や切り絵を楽しんでいる。 将棋を楽しむ方もおり、それぞれ好きな事をして穏やかに過ごせる様に工夫している。	
			(外部評価) 居間には大きなテーブルが3つあり、テーブルの上にはさざんかの花が飾られていた。壁面には、行事の様子の写真が貼っている。日中は居間で過ごす方が多く、調査訪問時には数人の利用者がテーブルを囲み、懐メロを聞きながら歌っておられた。3時のおやつ前には、居間で毎日ラジオ体操を行っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有空間(フロア)で過ごす事が多いが、自分のペースで過ごしてもらっている。 利用者同士お話したり、自由に動いてゲーム等を楽しまれている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 愛用の家具を持ってくる方が多く、居室も馴染みやすく過ごしやすい様に工夫している。 利用者と一緒に模様替えをする時もある。 ソファを置き、ゆったりと過ごす方もいる。	
			(外部評価) 洗面台やトイレが設置されている居室もある。ひとり暮らしの男性が入居する際には、床の一部に畳を敷き、ご自宅で使用していたじゅうたんを敷いて、こたつテーブルを置き、ご自宅と同じような雰囲気を作れるよう工夫された。利用者によっては、ご自宅で使用していたタンスや丸椅子を持ち込んでいる方もいる。昔のアルバムを置いている方は、時々、職員と一緒にアルバムを見て、思い出話し等されるようだ。入居当時、職員と一緒に食事作りした際の写真飾っている方もあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下が広く、共有空間(フロア)も動きやすいよう家具等配置を工夫している。 利用者が自分のペースで軽い運動を行ったり、自由に過ごせるよう、安心安全で自立した生活を送れる様支援している。	